

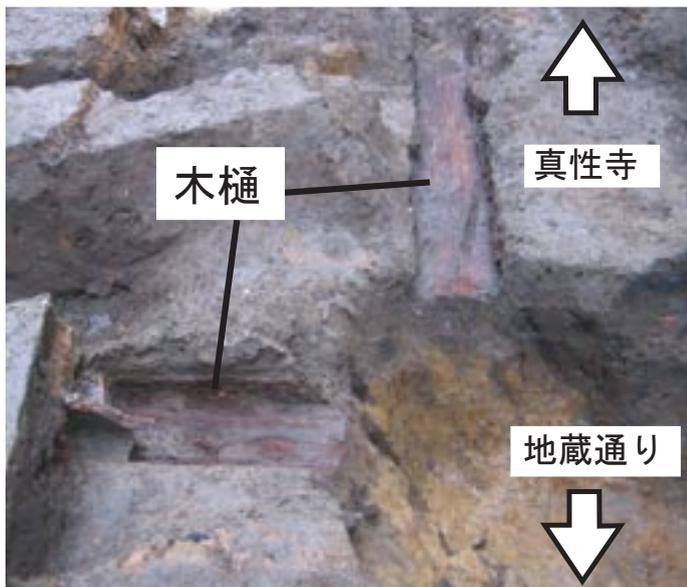
ただいま発掘中！

巢鴨遺跡たより



大坂屋ビル地区 第1報 2007.7.14

巢鴨町屋から真性寺境内にかけての発掘調査！



今回の発掘調査は、江戸時代の巢鴨町と真性寺の境内にまたがる地区で行っています。巢鴨町屋に当たる地蔵通り（旧中山道）側では、上（下）水施設である木樋が発見されています。敷地のほぼ中央部分に地蔵通りから真性寺に向かって一本と、これと交わるように横方向の二本の木樋が設置されていました。一般的に木樋は床下を通すようなことはせず、敷地と敷地

の間に作られます。この木樋の位置は、昔の土地の区画を知るうえで重要な手掛かりとなるでしょう。

さらに、地蔵通りの脇からは、土器製の素焼きのお皿を合せ口にした「胞衣皿（えなざら）」がみつかりました。「胞衣」とは胎盤のことで、江戸時代には生まれた赤ちゃんの健やかな成長を願って埋められたといえます。ここに住んでいた人は、一度埋めていた場所を忘れていなかったのでしょうか。このすぐ真横にも、もう一基の胞衣皿が確認されています。この他にも、建物の土台として柱をすえる礎石群、土間や

竈（かまど）といった、住まいに関わるものが数多く発見されています。



編集・発行

特定非営利活動法人

としま遺跡調査会